

第10講 世紀転換期：多民族国家アメリカ

1 移民の歴史—旧移民と新移民

(1) 資料（データ）

総人口の推移（アメリカ統計局）（万人）

1790年	392	1900年	7621
1800年	530	1910年	9222
1810年	723	1920年	10602
1820年	963	1930年	12320
1830年	1286	1940年	13216
1840年	1706	1950年	15123
1850年	2319	1960年	17932
1860年	3144	1970年	20330
1870年	3981	1980年	22654
1880年	5018	1990年	24871
1890年	6297	2000年	28142

人種別・ラティーノの割合

(2000年国勢調査)

		%
人種		
総人口	281,421,906,	100.0
一つの人種	274,595,678	97.6
白人	211,460,626	75.1
黒人・アフリカ系アメリカ人	34,658,190	12.3
アメリカ・インディアン・アラスカ先住民	2,475,956	0.9
アジア系	10,242,998	3.6
ハワイ太平洋諸島先住民	398,835	0.1
その他人種	15,359,073	5.5
二つ以上の人種	6,826,228	2.4
ヒスパニック系ラティーノ系		
総人口	281,421,906	100.0
ヒスパニックもしくはラティーノ	35,305,818	12.5
非ヒスパニックもしくはラティーノ	246,116,088	87.5

(2) プル要因とプッシュ要因

移民が発生する要因について

プル要因＝労働力の需要など受け入れ国側の事情 cf. 日本の農村の嫁不足

プッシュ要因＝外国側の事情：貧困、飢饉、宗教的迫害、政変ほか

(3) 歴史的推移

1) 建国まで

2) 19世紀末まで

3) 20世紀以降

1965年 1965年移民法

出身国別割当制は廃止。民族差別的な性格は解消。20世紀末移民ブーム再来。

(2000年の調査では) アジア系、ヒスパニック(ラティーノ)系の急増。

ラティーノ人口の推移(アメリカ統計局)

	ラティーノ人口	増加率	対全人口比
1980	14,608,673	—	6.4%
1990	22,354,059	53.0%	9.0%
2000	35,305,818	57.9%	12.5%

2 各論：三大移民グループ

(1) イギリス系アメリカ人

アングロサクソン文化を至上主義とする精神構造

ワस्प(White Anglo-Saxon Protestant) 優位の社会

アングロ Anglo = ラテン語アングラス(Anglus=Englishman)に由来

(2) ドイツ系アメリカ人(German American)

(3) アイルランド系アメリカ人

移民としては新参

「昔の幾世代にもわたるアイルランド系の母親たちは、単に望郷の念に駆られて故郷アイルランドのことを語ったが、今日、ニューヨークのアイルランドセンターで子どもをあやしている母親は、故郷に帰ることを口にするだけではなしに本当にアイルランドに帰るのである。・・・以前の移民たちはアメリカに着いたらここを永住の地と定め一生離れることがなかったが、今日のアイルランド系の人々のご先祖たちとは違って、簡単にアメリカを捨てる。アイルランド政府の発表によれば、過去20年間でアメリカに渡ったアイルランド人よりも、アイルランドに渡ったアメリカ人の方が1万3000人も多いということだ。」

『ニューヨーク・タイムズ』5.31.1998

長年の苦勞の末、ようやく「アメリカ人」になることを許された者たちが、アメリカ人としての生活に甘んじることなく、むしろアメリカ人であることを捨てようとしている。

どのように理解したらよいか。

参考 フランク・マコート Frank McCourt 『アンジェラの灰』(Angela's Ashes)